

帳」によると宝暦9年（1759）の造立となっています。今も三倉鼻頂上には地蔵が立っていますが、後世の再建と思われます。俗に六尺地蔵様といわれています。

また干拓前は湖の水辺であった三倉鼻の西側崖下、国道7号に面したところに「夫殿大権現」という賽の祠があります。

[参考資料：歴史の道調査報告VI「北部羽州街道」
秋田県教育委員会]

芭蕉塚

芭蕉の句碑の碑面には“ 鴨鳴くや 嵐のたたむ
水の月 ” 司農

句碑の裏面には、『天保八年丁酉十二月十一日卒
享年五六 渡辺伝右衛門』と刻まれています。

六尺地蔵様

かつて、八郎潟でもあったこの土地は、船が難破したり、春先には氷が割れて水難に遭うことが多く、更には湖上には亡霊がさまよう等の話がありました。

そこで村人たちは、航路の安全と亡霊供養、そして漁師や旅人の目印にと、宝暦9年（1759）天瀬川の肝煎喜右エ門（現当主、陽三氏）が発願者となり、近隣はもちろん男鹿の村々にも奉願し地蔵様を建立しました。俗に六尺地蔵様といわれています。

明治天皇巡幸の際の御野立所跡

三倉鼻は、明治天皇御巡幸の際の御野立所としても有名であります。明治14年（1881）9月14日、この日天皇は能代をご出発なされ、悪天候のなか、午後3時三倉鼻にお着きになりました。同所御野立所に御小休なされ、八郎湖、男鹿などの風景を御観望なされた後、一日市村に向かわれました。

正岡子規句碑

正岡子規がここ三倉鼻を訪れたのは明治26年（1893）8月でした。

前の日13日は、歩ける限り歩いた後、その足をいたわって馬車で秋田に着き、再び人力車に乗って大久保に向かいました。ここで車を降りて眼前に広がる八郎湖を目にしています。

夕暮れに一日市に着き、そこに泊まっています。次ぎの日一里ほど北の盲鼻（三倉鼻）に登りそこから八郎湖を望んでいます。

この時の句が碑に刻まれて三倉鼻公園にあります。

秋高う 入海晴れて 鶴一羽

子規が三倉鼻を訪れたのは27歳の時で、それから9年後の明治35年（1902）9月19日、腸結核と心臓衰弱で他界しました。三倉鼻は、子規が訪れた最北の地でもあります。

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」”から

NTT東日本秋田支社

みよし

みよし

三吉明神

現在赤沼に鎮座の三吉神社総本宮は、天明元年

（1781）藩主佐竹義敦が設けた雪見殿の跡に、慶應4年（1847）山頂奥宮の遥拝所が建てられたのに始まるが、一方では弘化4年（1847）に木曾石登山口から中岳頂上まで、四社殿が設けられ、やがて木曾石の三吉神社になるように、近世を通じて太平山三吉明神の信仰は盛行する。

秋田県下に80社の大平山三吉神社のミニ版があり、

大平山信仰の強さが知れる。だが、鹿角には一つもなく、本荘・由利にも4つしかないことから、大平山信仰と佐竹領との密な関係が知れる。

（1989年 改訂版秋田の歴史 新野直吉著
秋田魁新報社）

もりやま

もりやま
森山

1. もりやま

旧面潟地区の岡本はこの森山の麓にある。森は一つだけ離れた山のことを言っている場合が多い。